

# 2011年春季のサワラの漁況予報

2010年11月現在の集計では、2010年発生量は、近年では発生の良かった2008年並と推定されています。

## 大型種苗の放流状況



図1 放流場所

2010年は、全長約100mmの大型種苗を小田中間育成場から約87千尾、女木島漁協から約19千尾、引田漁協から約3千尾を放流しました【図1】。

瀬戸内海全体では、本県を含め、大阪府・兵庫県・岡山県・広島県・愛媛県・大分県で、全長約100mmの大型種苗を合わせて約200千尾放流しました。また、水産総合研究センター屋島栽培漁業センターからも、全長約60mmの種苗を18千尾放流しました。

## 標本調査の放流魚の混入率

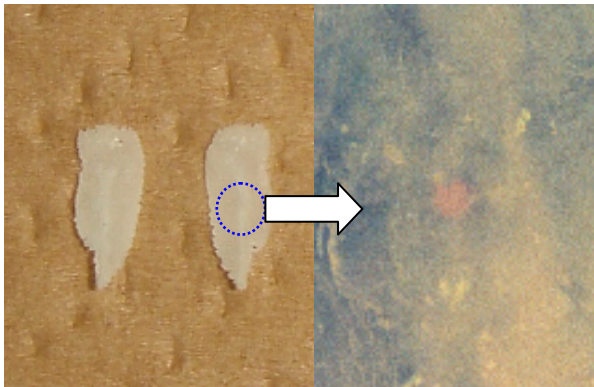


図2 耳石標識

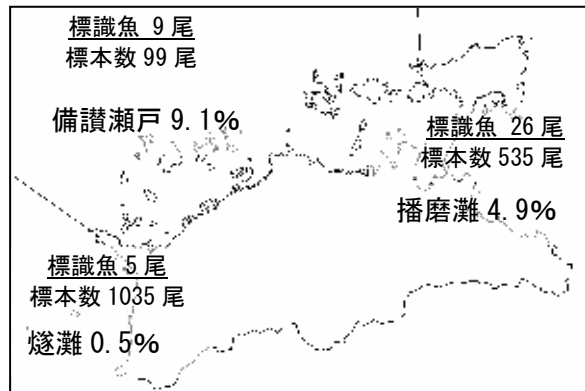


図3 灘別の混入率

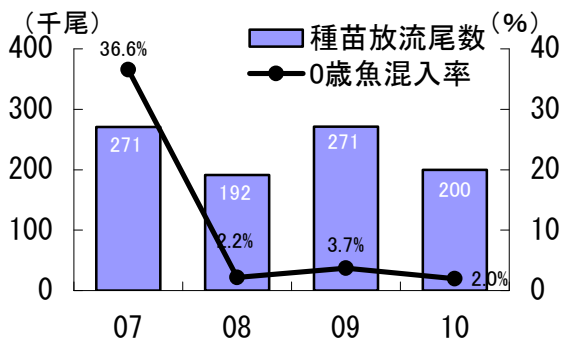


図4 放流尾数と0歳魚の混入率

放流魚には、天然魚と区別できるよう、全ての放流魚に標識をつけています【図2】。

2010年に調査した1,699尾の標本に48尾の標識が見つかり、混入率(標識魚/標本魚)は2.4%でした。海域別では備讃瀬戸は9.1%、播磨灘は4.9%、燧灘は0.5%でした【図3】。年齢別では、0歳魚は2.0%【図4】、1歳魚は7.4%、2歳魚は2.3%でした。

## 成長

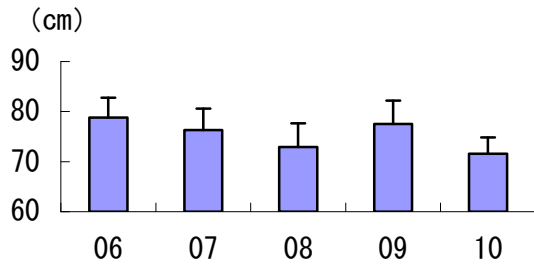


図5 5から6月の2歳魚の尾叉長

現在の漁獲の主群である2歳魚について、2006年から2010年の尾叉長を比較すると、小型化の傾向が見られました。

また、2010年は2008年と差がなく、他の年より小さくなっていました【図5】。

(Fisher's PLSD  $p < 0.05$ )

## さわら流しさし網試験操業調査結果

表1 試験操業結果

年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年
漁獲尾数	125尾	72尾	107尾	32尾	123尾
標識魚	43尾	23尾	1尾	0尾	3尾
混入率	34.4%	31.9%	0.9%	0.0%	2.4%
CPUE	20.8尾/隻	12.0尾/隻	17.8尾/隻	5.3尾/隻	20.5尾/隻
	1.4尾/反	0.8尾/反	1.2尾/反	0.4尾/反	1.4尾/反

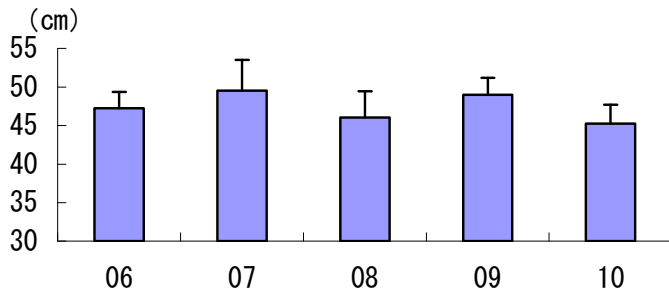


図6 尾叉長比較

播磨灘南西部海域で10月に実施した試験操業で、0歳のサゴシを123尾漁獲しました。CPUE（単位努力当り漁獲量）は2006年なみの、高い値となりました【表1】。

漁獲したサゴシに、標識魚は混入しませんでした。

漁獲したサゴシの尾叉長は、2008年と差がなく、他の年より小さくなっていました（Sheffe's 危険率5%）【図6】。

## 秋漁の漁獲状況

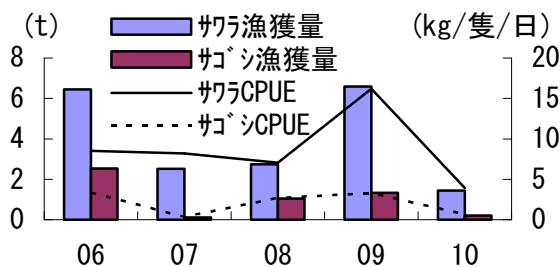


図7 さわら流しさし網漁獲量(燧灘)

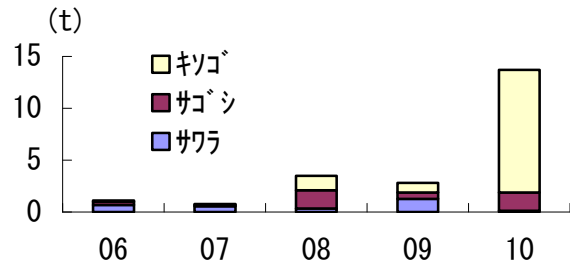


図8 大型定置網漁獲量(播磨灘)

\* 大型定置網は銘柄別に分けています。

TAC 集計によれば、10 月から 11 月の燧灘のサワラ流しさし網の漁獲量は、前年と比較すると、サワラは 22.0%、サゴシは 15.8%と低調でした【図 7】。

9 月から 11 月の播磨灘の大型定置網の漁獲量を前年と比較すると、サワラは 10.4%、サゴシは 294.1%、キソゴ（0 歳魚）は 1,204.9%でした【図 8】。

### 瀬戸内海全体の秋漁の漁獲状況

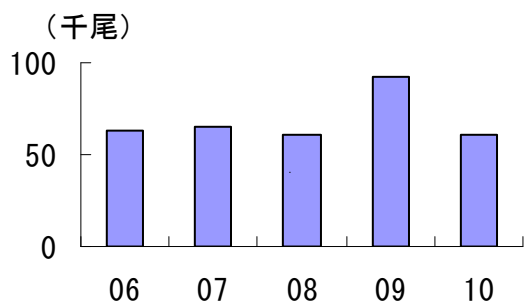


図9 9月から11月のサワラの漁獲尾数

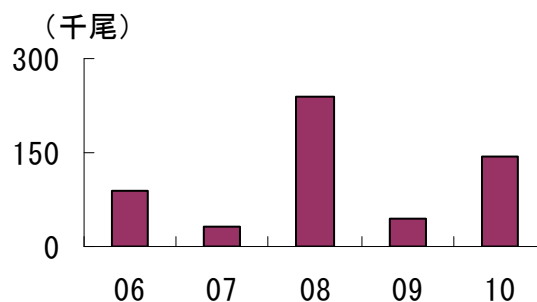


図10 9月から11月のサゴシの漁獲尾数

漁獲成績報告の集計によると、2010 年の 9 月から 11 月の瀬戸内海サゴシの漁獲尾数は、2006 から 2010 年の平均に対して、サワラは 89%、サゴシは 131%でした【図 9・10】。

## 2011 年春季の漁況予報

標本調査の結果、各年齢とも、放流魚の混入率に大きな変化が見られないので、放流魚の生き残りが順調であると考えられます。

5 から 6 月の 2 歳の標本魚および試験操業の 0 歳魚標本に、小型化が見られるので、資源量が良好であることが窺えます。

燧灘の秋漁は不漁でしたが、播磨灘の定置網のサゴシ及びキソゴの漁獲と、瀬戸内海全体の 9 から 11 月サゴシの漁獲が好調であったことから、今年の天然発生量が多いと考えられます。

### ○3 歳魚（2008 年生まれのサワラ）

2010 年を上回ると予想されます。

理由：3 歳魚は、漁獲対象の主群ではないが、08 年発生群のほうが 07 年発生群より資源が多いと判断されるため。

### ○2 才魚（2009 年生まれのサワラ）

2010 年並みと予想されます。

理由：08 年発生群と 09 年発生群の資源は、同程度と想定されるため。

### ○1 才魚（2010 年生まれのサワラ）

2010 年並みと予想されます。

理由：09 発生群と 10 年発生群の資源は、同程度と想定されるため。

結果として2011年は、瀬戸内海全体では、2010年並の漁獲が可能であると予想されますが、香川県の操業海域を回遊しない場合は、漁獲に結び付かない場合があります。

まだ、瀬戸内海全体の資源評価は「低位」、動向は「横ばい」です。

さわら流しさし網の漁業経営は厳しい状況ですが、可能な限り、漁業経営の効率化を図り、資源保護に努めてください。